

室員紹介 ～第六回 堀専門調査官～

総合政策局 参事官室(総合交通体系)
専門調査官 堀 貞治

- ① 出身地 : 鹿児島県 鹿児島市
- ② 室員歴 : 平成23年8月～ (約2ヶ月)
- ③ 趣味 : 「船好き」



鹿児島の「桜島フェリー」船上にて ※

今年の8月に着任し、「全国幹線旅客純流動調査」、「総合交通分析システム(通称:NITAS(ナイタス))」など、総合的な交通体系を整備する上での基礎となる交通の「現状把握・分析」を担当しております。

さて、このメルマガについても「現状把握・分析」をしてみますと、「総合交通」をテーマとしたものの割に、船について触れられる機会が少ないようなので(という役所らしい理屈をつけて)、今回は私の「船好き」ぶりを少しだけご紹介します。

鉄道の世界では、写真撮影を楽しむ「撮り鉄」、発車メロディ、車内放送などがお好きな「音鉄」、グッズをお集めになる「蒐集(しゅうしゅう)鉄」等々があるそうですが、私の「船好き」にはこのような興味・得意分野があるわるわけではなく、広く浅く、楽しんでいます。

例えば…昨年の夏休みなどは、「船三昧の楽しい旅行♪」に出かけました。

【楽しい船旅(2010) 行程】

まず、東京から新幹線・特急で青森に移動

- ① 青森港にて元青函連絡船「十和田丸」を見学
 - ② 津軽海峡をフェリーで横断(約4時間)
 - ③ 函館港にて元青函連絡船「摩周丸」を見学
- その後、苫小牧まで特急で移動して、シメに
- ④ 苫小牧港よりフェリーで茨城県大洗港まで

太平洋を南下(船中泊)

大洗からは鉄路にて水戸経由で帰京



苫小牧西港フェリーターミナル

旅の目的は、機械遺産にも登録された青函連絡船を見学することでしたが、充実した展示や保存されている可動橋(鉄道車両を船内に積み込むための橋)に満足し、また、復路のフェリーでは、甲板で爽やかな海風に吹かれた後、太平洋を見ながら、また心地よい揺れを感じながらの入浴(船内に大きな窓付きの浴場あり!)で何とも言えない開放感に浸ることができました。

今夏も「楽しい船旅(2011)」を企画し、慣行しようとしておりましたが、その矢先に転勤となり、泣く泣く断念しているところです。(隙あらば…と)

それから、船ファンには、この秋、「東京 お台場にある「船の科学館」が9月末を以て閉館」(一部除く)という大きな事件がありました。ここには、数多くの大型船舶模型などの室内展示に加え、いま話題のテレビドラマでも登場する元南極観測船「宗谷」、元青函連絡船「羊蹄丸」が係留されておりますが、「閉館前にもう一度」と9月のはじめに足を運んできました。

引取先を募集中の「羊蹄丸」では、涙！涙！のお別れのはずが、元船員のボランティアガイドさんが、本物の船員帽を被らせてくださり(ありがとうございます！)、さらには全国ネットのテレビニュースにわずか0.5秒ほどですが登場するという、おまけ付きで、ハイテンションな1日になりました。(もちろん、抜かりなく、各種グッズを買い込んだことは、言うに及びません。)

なお、元南極観測船「宗谷」(現在も見学可能！)は戦前に建造され、戦後は海上保安庁の巡視船として活躍していましたが、観測船に選定され、南極行きにあたって横浜の旧日本鋼管浅野船渠(ドッグ)で大改装を行いました。

実はこのドッグ跡地(記念の石碑があります)の隣に、小職が以前に2度勤務した職場があり、「宗谷」には現役時代を全く知らない私も、何かの縁を勝手に感じているところです。

最後に「船好き」で、かつ、交通関係の業務に携わる者としての「雑感」を。日々の忙しい生活や業務で交通を考えると、移動手段としての「速達性」「コスト」といった「効率」重視は当然のことですが、時には、「乗ること」や「乗り物」自体の「楽しさ」を味わう余裕が持てると、より、こころ豊かな日々が送れるのではないかと思います。

※ 鹿児島市の市街地と活火山「桜島」を結ぶ約15分、大人片道150円の船旅です。
船内の「うどん」も名物になっていますので、ご乗船の際は是非お試しください。
(風向きが悪いと、七味やネギが飛んでいきますので、ご注意！)

【「船好き」への誘い】

ご関心のある方は下記をご参照下さい。

- ・ 日本機械学会HP(「十和田丸」「摩周丸」)
http://www.jsme.or.jp/kikaiisan/data/no_044.html
- ・ 船の科学館(現在は「宗谷」見学のみ)
<http://www.funokagakukan.or.jp/index.html>
- ・ 桜島フェリーHP
http://sakurajima-ferry.jp/wordpress/?page_id=114